

研究所日誌

2002年3月

- 03/01(金) インフォーマル・セクター研究会 (協同総研)
03/02(土) 縦断シンポ京都
03/03(日) 縦断シンポ大分
03/03(日) ワーカーズフォーラム 2002 (神奈川)
03/04(月) 第22回事務局会議
03/05(火) 21C ビジョン委員会 (大塚)
03/09(土) 縦断シンポ長野(上田)
03/13(水) 「学生と新しい働き方(仮)」打合せPM4- (協同総研)
03/14(木) 第5回協同総研理事会 (大塚) ウイルコックス教授講演会
03/18(月) 第23回事務局会議
03/24(日) 縦断シンポ関西(大阪)
03/25(月) 第24回事務局会議
03/26-27 センター事業団本部長・事務局長会議 / 理事会
03/30(土) 茨城県高齢者協同組合準備会 (水戸)

編集後記

協同総研のある東十条からJR京浜東北線で2駅、荒川を渡ってJR川口駅からバスに乗って20分ほどで「めだかふぁみりい」の作業所に着きます。インタビューの前に、自己紹介かたがた労働者協同組合運動と、協同総研についての説明をすると、代表の山下さんとスタッフの長尾さんが熱心に聞いて下さいました。特に法人の問題については試行錯誤をしているようで、「協同労働の協同組合」法についても非常に興味を持っておられました。

めだかふぁみりいは、障害のある子供のいる家族が、「普通の」生き方を地域に問うた20年に及ぶ実践です。その実践が積み重なり、規模も広がっていく中で、初めの『思い』を公的な制度にのせていくことへの悩みも率直に聞かせていただきました。特に「働く」という部分では、地域に十分な受け皿がない以上は、施設の中に「固まる」こともやむを得ない面もあります。しかし、その受け皿も含めて地域に投げかけ、作ってきたのがめだかふぁみりいの歴史です。地域と施設、どちらが良いということではありませんが、多様な生き方、働き方を社会に認めさせるひとつの条件として、「協同労働の協同組合」法の制定が待たれます。

(菊地 謙)

前号(2002年3月No.117)で掲載いたしましたコラムが、編集上のミスで誤植多数となっております。筆者の大谷さんにご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びすると共に、同コラムを再掲載させていただきます。(編集部)